

●基調講演 1 「デジタル社会に求められる女性活躍」

桜の聖母短期大学 西内 みなみ 理事長・学長

皆さま、ごきげんよう。

桜の聖母では、幼稚園から短期大学まで、授業の最初は「ごきげんよう」でスタートします。最後も「ごきげんよう」で終わります。ご機嫌の悪い短大生も、朝、通学すると、同じキャンパスにいます幼稚園児や小学生たちから「ごきげんよう」攻撃があつて、とてもご機嫌が良くなって授業を聞きに来てくださいます。



Society 5.0 とは？

ご存じのように、今、Society4.0 情報化社会が進展し、次の Society 5.0 に入りつつあると言われていています。私たちは性差にとらわれず、この新しい時代をどう切り拓いていくかという課題に向き合っています。

Society 5.0 とはどのような時代か。狩猟社会である Society1.0、そして農耕社会が Society2.0。人類はここまで約 1 万年かけて進化してきました。そして、Society3.0 の工業社会はおよそ 100 年で駆け抜けてきました。今私たちが置かれている Society4.0 は情報化社会です。そして、いよいよ次世代の子どもたちが迎えるのが創造社会と呼ばれている Society 5.0 です。ロボット、IoT、AI、そしてイノベーション。新たな価値・可能性。デジタル革新が起きて、そして次の人類に要求されるのは、Imagination(想像力)と Creativity(創造力)の二つの力です。AI、IoT・・・それは私たちの頭脳の限界を超えていきます。

また、身体の限界も超えていきます。私たちの体でできなかったことが、ロボットを使うことによって可能になります。たとえば介護の世界ではすでに画期的な働きを示してくれています。

地理的限界も超えていきます。高速インターネットで様々な情報が飛び交っています。どこにしようとも、瞬時に世界の情報が手に入る。また、逆に言えば、どんな地点にしようとも、瞬時に世界に情報発信できるのです。

変わっていく「大学の使命」

桜の聖母短期大学は、実は短期大学だけではなくて、社会人向けの生涯学習センターを併設しております。高齢の男性の方と二十歳の女子学生がディスカッションをしていることが、当たり前風景になっています。社会人たちが、なぜ、今、学びを求めているかという、Society 5.0 は不安定・不確実・煩雑・曖昧な世界ですが、自分たちが今まで取ってきた戦略ではこの時代を生き抜けない、それを共通認識として持っているからなのです。

大学の使命も変わってきています。単に資格や免許を与えたり、知識や技術を身に付けさせて社会に送り出したりではなくて、世界に向けて自分の問いを発し、一緒に探求していけるような、そういう人財を育成しなければなりません。また、リカレントやリスクリング、様々な学習機会を提供できるような、そういう使命を、今、大学は持っています。

「性」と思春期

性について考えましょう。性とは、体の変化や性行為のことだけではなくて、命を大切にするということを意味しているのです。



生物学的な性も考えられますし、男女の人間関係から見た性もあります。性発達は主に 15 歳をピークとしておりますので、ちょうどそのころ、男女と人間関係の問題が発生してきます。脳の発達と性ホルモンは非常に関連していますので、思春期になるとイライラする、ムカムカする。

特に優等生を演じてきた子ほど、親に対して切れてしまいます。高校生に、これは個人的な人格が変容したわけではなくて、性ホルモンの仕業なのだという説明してあげると、優等生ほどほっとします。良かった、自分が変になったわけじゃなく、これは性ホルモンのせいなのだというふうに。

実は、ちょうど思春期の子どもに向き合う親の世代が更年期、性ホルモンが

減退しているときに当たります。自覚さえしていれば、メンタルをコントロールできてやり過ごすことができますが、親も子も性ホルモンのせいでイライラしているものですから、全国的にニュースになる、10代の子が切れるというような問題が起きているのです。

性の多様性

性を考える切り口は、身体的な性であったり、性自認であったり、性的嗜好であったり、社会的な性であったり、様々な捉え方があります。

高校生が一番驚いたって言うのが、LGBTQ。実は5%から8%いらっしゃるのです。男性と女性は明確に分かれているのではなくて、非常にレインボーな人たちで、連続性の中に性があって、性差なんてどこかで線引きできるものではないのです。LGBTQ という問題は、実は私たちの左利きのパーセンテージや、血液型で言えば AB 型というぐらい一般的にある、何のことはない社会現象、自然現象ですよと高校生にお話しすると、かなり驚きます。

ただ、カミングアウトしているのか、それを皆さんにお伝えしているか、だけの問題であって、一人一人の中にはそれが潜んでいるのです。何のてらいもなくお互いにそれをディスカッションできる、共有できる時代が来るよとお伝えしています。

性差・ジェンダーという「パラダイム」

ただ、現状では、ほとんどの女子学生も、中学生、高校生たちも、性差、ジェンダーというパラダイムにとらわれています。つまり、女性だからできない。たぶん、この問題意識が、今日のシンポジウムとつながってくるのかなと思いました。

これを「パラダイム」と言います。パラダイムというのは、そもそも状況や物事に対するものの見方や考え方なので、ここさえ学習によってチェンジできれば、人生が変わります。

例えるなら、色の付いたサングラスをかけていると、世界が例えば黄色のガラスが入っていれば黄色に見えますよね。でも、そのサングラスを外した瞬間、

本当の色が見えてきます。それが、女性だからできないというジェンダーバイアスです。

パラダイムは人によって異なります。発達の臨界期というのがあって、そこで定着してしまったパラダイムを払拭するには、やはり同じぐらいの時間とエネルギーがかかります。例えばサーカスの象はロープ 1 本で小さな杭につながれているだけなのに、絶対に逃げない。なぜならば、象は子象のときから絶対に逃げられない大きな柱にくくり付けられて育てられるからです。何度も逃げよう、逃げようとチャレンジするのですけれども、逃げられない。やがて象の中に、この逃げられなかった経験が蓄積して行って、最後、いつでも引っこ抜けるような小枝にくくり付けられたロープ 1 本でも逃げ出せなくなる。そういうパラダイムを、象自身が獲得してしまうのです。

パラダイムを超えていくための「言葉」

ちっちゃい子を観察していると、「駄目、駄目」と言っている子は、ああ、親に「駄目、駄目」って言われているんだらうな。「そんなの無理」って言っている子を見ると、ああ、相当周りに言われているな、と。「大丈夫、できる」って言っている子は、周りの大人がそう言ってくれている。女子学生たちも、「女性だからどうせ駄目よ」「女性には無理よ」といった刷り込みを受けてきます。たぶん、IT についてもそういう刷り込みが多いのではないのでしょうか。今はかなり改善しているかなと思いますが、昔は理工学部に行くのは男子と相当刷り込まれていました。

私たちが 1 日の中で一番聞いている言葉は誰の言葉ですか。自分です。

朝、起きて、今日もまた西内の講義を聞くのは嫌だな、とお母さんに言うと思います。ここで 1 回、自分の脳に言い聞かせました。学校に来てお友達に、嫌だな、今日、西内の授業だよ。2 回目。最後、私の授業を聞いたら、つまらない西内の授業だったと。3 回目。自分の脳は 3 回聞いちゃっている、つまり、自分で自分に言い聞かせちゃうのです、私たちは。だから、逆に言えば、これを逆手に取ればいいのです。パラダイム転換をするには言葉なのです。言葉がパラダイムを転換できます。

言葉・ロールモデル・ゴールイメージが大切

一番重要なのは、自分がどういう言葉を使っているか。

これは、もうたくさん例があります。大谷君を出すまでもなく。彼らがどれだけ言葉を選んで、ポジティブワードに変換しているのか。それが人生を変えていくのです。自分の言葉を、自分を大切にすることを言葉に変えていけば、人生は変わる。こんな人生でいいかって思っちゃうと、そんな人生になっちゃうのです。こういう人になりたいというロールモデルをつかんで、自分のゴール設計をして、そこから今、何をすべきか。自分は ICT をしっかり身に付けよう、という覚悟を決めれば、人生の設計図ができます。

そうすると、脇道に逸れずに、自分の人生で、自分の必要なことを忠実に着実に学習していくことができます。このゴールイメージが非常に重要です。

言葉が変われば人生が変わります。言葉が変われば、私たちの思考が変わります。思考が変わると、行動が変わります。行動が変わると、習慣が変わります。習慣が変わると、人格が変わります。人格が変わると、その方の人生、運命が変わります。言葉を大切にしていきましょう。それがあなたの人生を変える。

Society 5.0 を迎えたとき、こういったことを意識していれば女性も男性も創造的に、いきいきと生きていけるのではと思います。

本日はありがとうございました。